



## 会議議事録

会議名	2022年度 第1回 認知症対策検討委員会 会議
-----	--------------------------

### 開催概要

開催日時	2022年 6月 8日 (水) (12:30 ~ 13:00)	開始時刻	終了時刻
開催場所	Web 会議		
出席者	担当常務理事/委員長: 田中 志子 副委員長: 山口 晴保 委員: 砂川直美、山本恵利香、緒方千代美、吉田賢史、吉田大樹 敬称略		

### 議事内容

#### 【議題】

#### ①今年度の研修計画について

- A: 群馬大学伊東美緒先生による講義 第2弾
- B: 田中志子先生による1on1研修会

#### ②研修への集客について

#### 【決定事項】

#### ①今年度の研修計画について

- ・伊東先生の研修は上半期に実施していく。
- リハビリテーション・ケア合同研究大会後、宣伝するため10月~11月中旬頃開催予定。
- ・田中先生の研修は下半期に実施していく。

#### ②研修への集客について

- ・研修タイトルにキャッチーなものを考える。
- ・各地域での研修等の機会に理事病院以外への情報発信を行っていく。
- ・各学会にてパワーポイントなどで宣伝していく。
- ・リハビリテーション病院・施設協会のLINEアカウント(サブアカウント等)を作成し、認知症に興味のある人に登録してもらい情報を発信していく。

#### 【議論内容】

- ・A・Bの研修の実施の時期について、どちらを先に実施するのが良いか。(田中委員長)
- 伊東先生の研修を先が良い。伊東先生の研修で学んだことを現場で活かし、1on1研修会で悩みを詳しく相談できるのではないか。(緒方、山本)



→1 on 1 研修については事前に議題を集めてそれに対する返答を田中先生が行うというイメージであっているか？（砂川）

→事前に挙げてもらった議題に対して答えていく。参加者はディスカッションを行うなどして自分の現場に落とし込んでほしい。現場での困りごとは、入浴・食事・リハビリの場面での「怒ってしまう」「やってくれない」などが多いが、1 on 1 で深く入り込むことでより具体的なアドバイスを行うことでケアの入り口を作っていきたいと考えている。（田中委員長）

→先に伊東先生の講義をして頂き、興味を持った方々に1 on 1 研修に参加していただくのが良いと思った。（砂川）

→1 on 1 研修が先でも良いのではないかと。普段疑問に思っていることを足掛かりとして、1 on 1 研修に参加し、参加者の皆さんで考えた上で、伊東先生の研修に参加してもらいたいと感じている。（吉田賢）

→伊東先生の研修を先に行って欲しい。伊東先生の研修内で他施設・多職種で共有し、現場に落とし込んだうえでの疑問や、困りごとを1 on 1 研修で相談できる流れが良いと思う。（吉田大）

→伊東先生の研修は総論だと思う。1 on 1 研修は各論。どっちを先にやるかの議論は意味が無いと感じる。昨年の伊東先生の研修はなかなか人が集まらず、理事の方などに動員を求めて集客を行った。このようなことはやる必要があるのかと疑問に思う。今回実施するのであればグループワークは実施せず、講義と質疑応答のみにして、参加費を引き下げるなど参加しやすい環境にすることが必要。前回は伊東先生の研修で集客が出来なかったから今回は1 on 1 を実施してみることも良いとおもう。むりにどちらも実施しなくてもよいのではないかと。認知症ケア加算に該当する研修を開催すれば人が集まるのではないかと。（山口副委員長）

→認知症ケア加算の研修は毎年ニーズがある。日本慢性期医療協会での認知症ケア加算該当研修では満席になっている。本委員会と別の協会などの合同研修が実施できればよいと考えている。（田中委員長）

・伊東先生の研修はもっと現場の方々に聞いてほしい。どうすれば人が集まるか意見が欲しい。（田中委員長）

→理事病院の参加は得られている。地域リハ塾など他の委員会を巻き込んで、理事病院以外の病院・施設へ情報を発信していきたい。各病院でつながりなどあれば教えてほしい。また、研修タイトルをメッセージ性の強いものにするなどの工夫も行っていきたい。（田中委員長）



→各地区での集まりはすべてオンラインとなってしまう。多職種での集まりなどはない状態のため他病院・施設への呼びかけは難しい。(砂川)

→現場での経験から、高次脳機能障害の患者様と認知症を有する患者様で共通している部分がある。高次脳機能障害に関わっている方々への声掛けは可能。県士会理事に就任したため、情報を発信していく事が出来ると思う。(吉田賢)

→熊本県の看護協会の研修は現地開催が増えている。その場での情報の発信はしていける。(緒方)

→高次脳機能障害の拠点機関の担当を行っている。関係機関等への情報の発信は行っていける。(山本)

→メッセージ性のつよい研修タイトルでより多くの人に興味を持ってもらいたい。(吉田大)

→昔と比べて様々な研修が多くなっており集客が難しくなっている。アイデアとしては、Peatix などのイベント会社を利用して広告を出していくというものがある。群馬認知症アカデミーで利用したが約100人の人が集まった実績がある。利用登録作業などのデメリットもあるが、広告がながせるというメリットがあると考える。リハケアの大会にてチラシなど用いて発信していく手もある。また、リハビリテーション病院・施設協会の中で認知症に興味のある方むけにメール会員制度を導入し、毎月「認知症対策便り」など有益な情報を発信していくのも良いのではないかと。メール会員に対して現場のニーズを聞けるメリットもあると思う。認知症に興味を持っている方々のサークルのようなものがあっても良いのではないかと。(山口副委員長)

→Peatix の利用は個人向けには向いているが病院全体での参加となるとシステムが難しい。各学会でパワーポイントにて情報を流していく事は実施していきたいと思う。伊東先生の研修内容を詰めていきキャッチーなタイトルをつけていきたい。メール会員については、リハビリテーション病院・施設協会のLINE アカウントを利用できるのではないかと。メールを利用していない人やパソコンを所持していない人が多い中、スマートフォンで利用できるメリットがある。LINE 便り等を出していく場合は委員の皆さんに月交代で記事を作成して頂きたい。認知症ケア加算研修については事務局の負担が大きいため相談して決めていきたい。(田中委員長)

次回予定	年 月 日 ( ) ( : ~ : )	開始時刻	終了時刻
------	---------------------	------	------

議事録作成日	2022年6月8日	議事録作成者	吉田大樹
--------	-----------	--------	------

委員会議事録は理事会資料として提出します。

会議終了後、1週間以内にメールで事務局へご提出ください。[ 提出先：[info@rehakyoh.jp](mailto:info@rehakyoh.jp) ]